

優良看護職員として県知事表彰

小池とし前看護部

10日に水戸市の県立県民文化センターで開かれた第50回「いばらき介護の祭典」で、城西病院の前看護部長、小池としさんが優良看護職員として県知事表彰を受けました。この日は、長年にわたって看護業務に献身的に従事し、顕著な功績があったとして、看護師、保健師、助産師の計11人が県知事表彰を受け、小池さんが代表して受賞の喜びを知事に語りました。

授賞式で小池さんは、「長年やってきてよかった。人々が大きな災害が起きるのではないかという心配の中、災害支援や国際看護を視野に入れた活動も大切になります」など、これまでの活動の一端を振り返りながら、受賞の喜びを知事や祭典の参加者たちに伝えました。

小池さんは、約20年前に大学病院から城西病院に移りました。「大学病院時代の部下が城西病院に勤めていて、海外支援のためにアフガン医療支援に行かないかと誘われました。その時に成田空港で初めて多田正毅理事長ら病院関係の人たちに会ったのがきっかけです」と振り返る。その後、城西病院に入り、パキスタンのペシャワール、アフガニスタンのカブールなど、アフガン難民が集まる地域にも赴きました。

「ガーゼ1枚を大切に使わないといけない。ミルクや飲

災害支援や国際看護を視野に



料水はきれいな水でと話しても、その水を遠くまでくみに行かないといけない。実際にその場所に行かないと分からないことは多いです」といい、「山登りと海外旅行が好きな私にとって、この病院の活動が合っていました。自分で行きたい、見たい、世界を見たいと思っていました」と笑う。そして「日本に帰ったら、物があふれ、もったいないと思いました。でもどこにいても対象は患者様。気持ちは同じです」とも指摘しました。

「看護師となって40年間、医療の世界でその資格を生かしながら働いてきました。継続は力。若い人が、今がいやと思ってもその経験が役立つことがある。目先の感情に左右されず、いやなことを克服して次に生かしてほしい。医療は今、大きな病院が主流となっているが、地域看護も仕事の一つ。地域に密着して活躍することも大切です」と、後進にエールを贈りました。

日本語学校責任者としてタイへ

6月、「すばる日本語学校」の現地責任者としてタイに渡ります。「日本語って何かを学ぶ初心者から、通訳や日本企業で働く語学力を身に着けたいという上級者まで対応できる学校にしていきたい」と夢を語りました。

すばる日本語学校は、昨年6月にタイのメーサイ市に開校。メーサイ市から建物の提供を受けて茨城国際親善厚生財団（IIFF）が協力し、その総責任者として小池さんが現地に赴任します。

タイでは、日本への観光や仕事に就きたいという人が多く、日本語への関心も高まっているといいます。「生徒の応募が多く、今の課題は先生が少ないことです」と語ります。

「日本語学校として教育の中身を充実させたい。この学校で学び、日本語を使って活躍する人材を卒業させたい」と熱く語っていました。

